

県立古河第二高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】(令和6年度)

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働きかせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようとする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問い合わせを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようとする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

生徒一人一人が自らの夢の実現のため、いきいきと安心安全に学ぶことのできる学校づくりを力強く推進するとともに、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為の人材を育成する。

- 1 基礎学力の向上のため、義務教育段階の学習内容の学び直しを進めるとともに、進路希望者の進路実現に必要な発展的学力の向上に努める。教科指導の研修を充実させ、授業内容および指導方法の改善を図る。
- 2 生徒の進路意識を喚起する方法や進路情報提供の適切化を図り、また、本校の教育活動に対する保護者や地域の理解を得、学校・家庭・地域が三位一体となった教育環境の整備を推進することにより、進学、就職ともにより多くの進路実現を獲得する。
- 3 生徒理解を深め、生徒教師相互の信頼関係を確立することにより、生徒が問題行動に向かわざ自ら回避する能力を育て、主体的な予防と再発防止を図る。
- 4 責任感・自主性・協調性等を養うとともに、部活動への積極的参加を呼びかけ、その活発化を促す。学校行事や生徒会活動を工夫し、豊かな心を育み、社会性や思いやりのある人間を育てる。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- ・自分の性格や適性を知ることとともに、職業についても正しく理解し、自分に合った職業選択が出来るようになる。
- ・他者的人格を認め、他者と協力して仕事が出来るようになる。
- ・コミュニケーション能力を備え、他者の言っていることを正しく理解し、他者に自分の考えを正しく伝えることが出来るようになる。
- ・社会の仕組みを理解し、地域社会に貢献できるようになる。
- ・政治に興味を持ち、自分たちの意思を社会に反映させることができる。

総合的な探究の時間の学習評価

- ・自分の性格や適性を理解したか。
- ・地域社会にある職業の種類や仕事内容を理解できたか。
- ・自分にあった進路決定が出来るようになったか。
- ・他者的人格を認め、協力して仕事が出来るようになったか。
- ・コミュニケーション能力が身についたか。
- ・社会の仕組みを理解し、社会人として行動できるようになったか。政治に興味を持ち、自分の意思を持って選挙に行くことが出来るようになったか。

生徒の実態

- ・自分自身の興味関心や得意とする能力が自覚できない。
- ・コミュニケーションが苦手で、生活の中で誤解が生じやすい。
- ・社会性や協調性に欠け、集団行動が苦手な生徒もいる。
- ・社会の仕組みや職業についての知識が浅く、自分にあつた職業選択が出来ていない。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- ・その生徒にあった能力を発見し、その能力を育成する。
- ・その能力が生かせる職業の選定をする。
- ・企業との連絡を密にして、就職後に問題が生じないようにする。

目指す生徒の姿

- ・自分自身の興味関心や得意とする能力を理解する。
- ・コミュニケーション能力が身につき、他者と生活が円滑に行なうことが出来る。
- ・社会性や協調性を持ち、集団で行動したり、協力して1つのことを成し遂げたりする能力がある。
- ・社会の仕組みを理解し、その中で自分に合った職業を選択することが出来る。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

- ・他者とのコミュニケーションにおいて自分を知ろう。
- ・コミュニケーションスキルを身につけよう。
- ・自分の将来を考えよう。
- ・職業について知ろう。
- ・生き方とライフプランを探究しよう。
- ・コミュニケーションスキルを学び伸ばそう。
- ・インターンシップに行こう。
- ・オープンキャンパスに参加しよう。
- ・金融トラブルから身を守るために知識を身につけよう。
- ・政治や選挙に关心を持つ。
- ・地元地域の企業について関心を高めよう。
- ・自分に合った理想のライフプランを考えよう。
- ・社会人のマナーについて調べよう。
- ・税金の種類と仕組み、どのように税金が使われているか探究しよう。
- ・年金について探究しよう。

学習活動、指導方法等

- ・社会人としての生きる力を養うため、グループワークを通じて、異なる意見や他者の考え方を受け入れ尊重し、課題解決の手法を学んでいく。
- ・インターンシップやオープンキャンパスでは、自分で行きたい企業や学校を選び、個人で相手側に問い合わせて参加する。その体験の中で、問題解決の手法を学んでいく。
- ・金融トラブルから身を守るために知識を身につけるためには、家庭科と連携し、どのようなトラブルがあるのかをテーマにして、消費生活センターの力も借りて調べ、互いの発表を聞きながら、様々な問題を解決する能力を身につける。
- ・税金の仕組みや年金については、公民科と連携し、グループでテーマを決め、そのことについて調べる。また税務署や年金事務所の職員にも協力を仰ぎ、深く理解することを行う。
- ・自分発見や他者との関わりについては、道徳の探究を絡めて指導を行っていく。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- ・インターンシップや職業人のインタビューなどにおいて、地域企業との連携を行う。
- ・オープンキャンパスにおいて、大学や短大、専門学校などと連携を行う。
- ・金融教育において、家庭科や消費生活センターの職員などと連携を行う。
- ・税金や年金について、公民科と税務署や年金事務所などと連携を行う。